


当科の臨床、教育、研究の取り組み

附属病院 放射線・病理診断科
岩田 洋

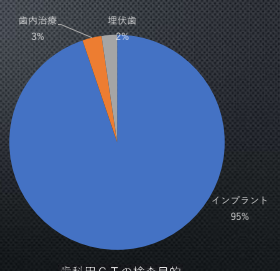
放射線・病理診断科と放射線検査室

- ・撮影装置：
 - 歯科用 X 線撮影装置 4 台
 - パノラマ X 線撮影装置 3 台
 - セファロ 1 台
 - 歯科用 C T 2 台
 - 頭部撮影装置 1 台
 - 一般撮影装置 1 台
 - マンモグラフィ 1 台
 - C T 1 台
 - X 線 T V 1 台




昨年度の外注検査実績

セファロ	86件
歯科用 C T	173件
インプラント	164件
歯内治療	5件
埋伏歯	4件
C T	3件
インプラント	2件
上顎洞精査	1件



歯科用 C T の検査目的

「偶発所見」



「研究を実施する過程で発見されるものの、当該の研究目的の射程からは外れている参加者個人に関する所見のうち、健康面または生殖面での重要となる可能性があるもの」

- Susan M. et al. 2008.

当科の外注検査で発見された「偶発所見」

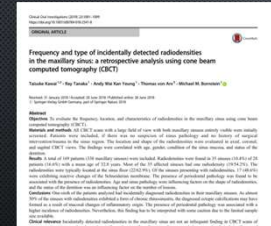
偶発所見あり 45%
偶発所見なし 55%

外注検査における有所見率

検査項目	件数
最大径測定	58
傾斜検訂	9
傾斜量測定	1
上顎洞炎	18
粘膜炎	5
黒点状色素斑	2
嚢石	1

(2022年度実績)

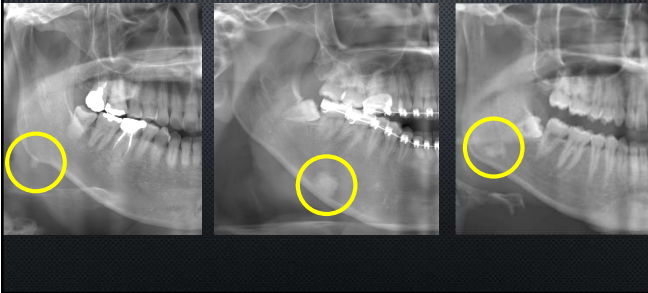
歯科用CTと偶発所見



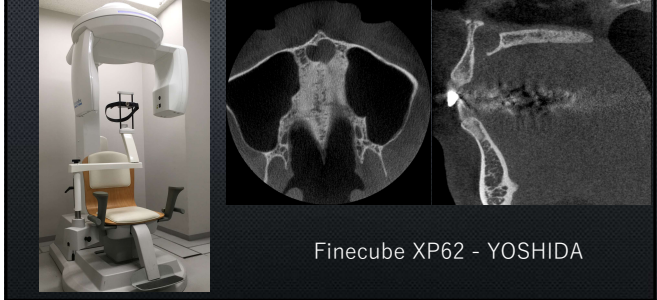
「解析対象者の 6分の1 は、上顎洞に偶発所見があった。
所見のほぼ50%が慢性鼻副鼻腔炎であった。」

Taisuke Kawai et al.
in Clinical Oral Investigations (2019)

パノラマX線画像で発見された偶発所見

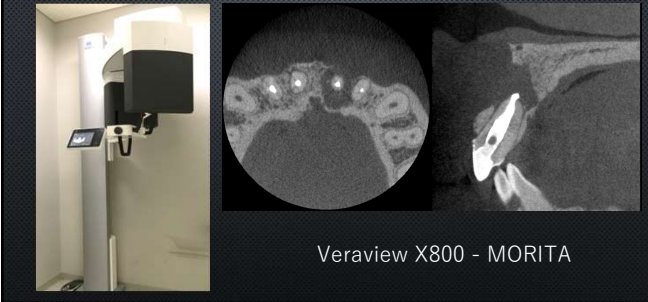


当院の歯科用CT装置



Finecube XP62 - YOSHIDA

当院の歯科用CT装置



Veraview X800 - MORITA

歯科用CTと偶発所見

SYSTEMATIC REVIEW
A systematic review on incidental findings in cone beam computed tomography (CBCT) scans

Sandy Dief, Anika Vito-Karim, Nicholas Antonakakis and Richard McGroun

Objective: Cone beam CT (CBCT) is increasingly becoming a standard imaging modality in dental practice. This study aims to systematically review the prevalence of incidental findings in CBCT scans.

Methods and results: This review searched online databases of studies and assessed the prevalence of incidental findings in CBCT scans. 1000 CBCT scans were analyzed to identify the quality of the CBCT scans, of which only 10 studies met the inclusion criteria. The overall prevalence of incidental findings was 14.5%. The most common incidental findings were 24.3% (10/41) and 18.3% (7/38) of the scans. The most common incidental findings were 24.3% (10/41) and 18.3% (7/38) of the scans. The most common incidental findings were 24.3% (10/41) and 18.3% (7/38) of the scans.

Conclusion: This review has shown that incidental findings are common in CBCT scans. The prevalence of incidental findings is 14.5%. The most common incidental findings were 24.3% (10/41) and 18.3% (7/38) of the scans.

Sandy Dief et al. in Dentomaxillofacial Radiology (2019)

「偶発所見への遭遇頻度は高いが、その全てが直ちに医療的処置を必要とするわけではない。脅威となる偶発所見の有病率が低いことから、CBCTは従来のX線写真の代替と考えるべきでなく、使用する場合は歯科放射線科医による画像診断が望まれる」

偶発所見を見落とさないための工夫

- 検査目的以外の部位も見る習慣をつける。
 - 正常像を目にする機会を増やすことで、異常所見が発見しやすくなる。
- パノラマX線画像と見比べながら診断する。
 - パノラマX線画像は検査目的以外の部位も総覧的に観察できる。
- 複数名で画像を確認する。
 - 先入観の無い目で見直すことで新たな発見がある。症例検討は大切。

もし「偶発所見」を発見したら…

- 画像所見を患者に説明する。
- 画像所見を診療録に記載する。
- 必要に応じて高次医療機関に紹介する。
- 至急の治療が必要な疾患が判断がつかない際は
歯科放射線専門医にご相談ください。